

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月12日
枚方市立五常小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

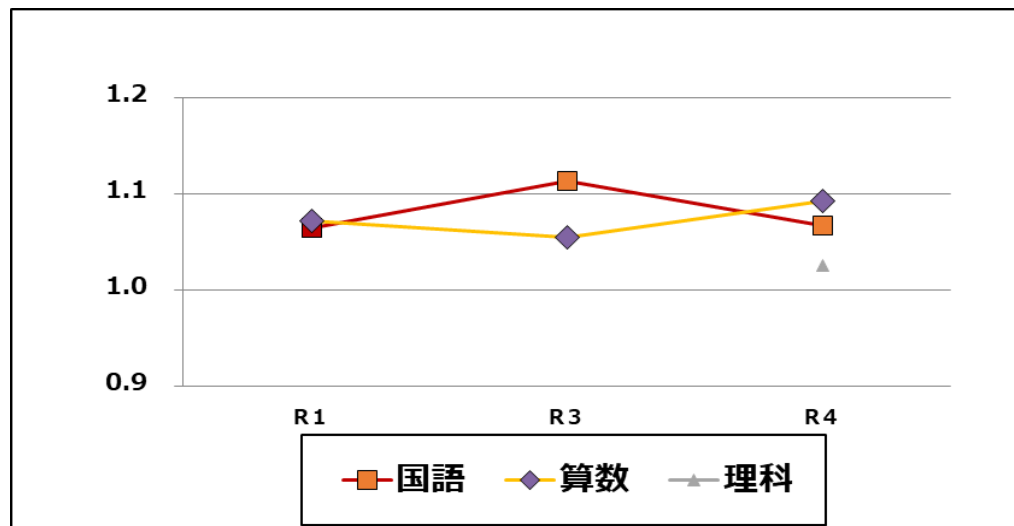
学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

国語・算数・理科のすべての平均正答率は、全国平均を上回っていました。

○国語について

基本的な言葉の特徴や使い方、言語文化に関すること、また、登場人物の気持ちや相互関係に着目して、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりする「読むこと」に関しては、7割を超える正答率でした。一方で、複数の条件をもれ落なく満たして、「文章のよさ」や自分の考えをまとめることについては、正答率が5割を下回り、課題が見られました。

○算数について

基本的な整数の乗法や百分率の分数への変更などは8割、また、目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉えることは7割を超える正答率でした。一方で、目的にあった数の処理の仕方を選んだり、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかについては、正答率が5割を切り、課題が見られました。

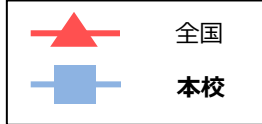
○理科について

基本的な器具などの使い方、観察や実験の正しい結果を選ぶことに関しては、7割を超える正答率でした。一方で、日光が直進することを理解しているかについては、正答率が3割を切り、課題が見られました。

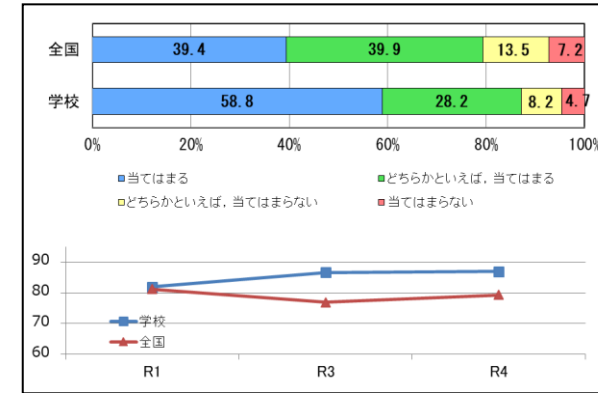
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

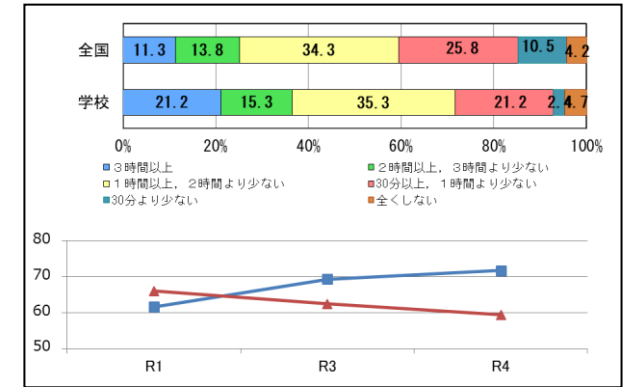
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



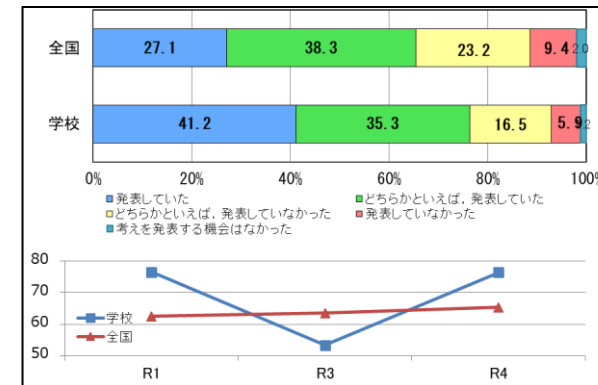
自分には、よいところがあると思う



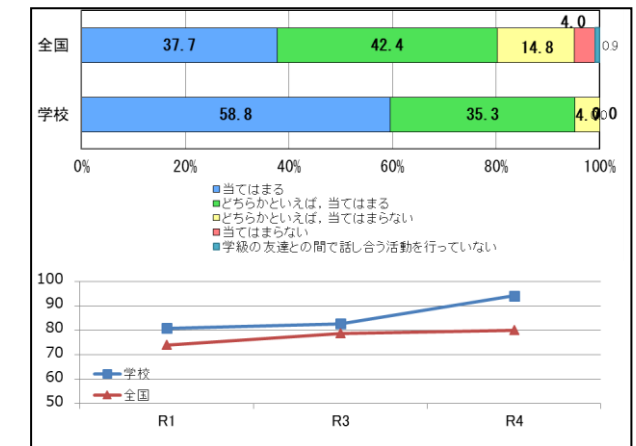
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(1時間以上)



授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



<質問紙調査結果の概要>

質問紙調査で上記4項目については、全国平均やこれまでの本校の結果と比較して、よい傾向が見られる結果となりました。

授業の中で、話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広めたり、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表したりすることの肯定的回答が増加していることから。本校の国語科を研究教科として行っている校内研究「根拠を持って話し、質の高い聞き方を通して、新たな発見ができる子どもの育成」の取り組みの成果が継続して出ていることがわかりました。

まとめ

学力調査における本校児童の平均正答率は、昨年度と同じように、全国平均よりも高い割合をしめしていました。また、質問紙調査においても概ね肯定的回答の割合が高いという結果となりました。

これから子どもたちが生きる社会は、変化の激しい社会だと言われています。正解がない社会の中で、自分が納得し、他人も納得できる「納得解」で解決しなければいけない場合が出てきます。学校目標である「自ら学び、自他を尊重し、仲間と高め合える子の育成」をめざし、授業改善をこれからも進めてまいります。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

物語を読んで、推薦する
(那須田淳「銀色の幻想」)

二 那須田さんは、「物語から伝わってくることをまよひ、せいぜい自分の文章を書いていきます。次は『銀色の幻想』です。あなたが那須田さんなら、どの条件に合致して書きますか。

【条件】
○ この物語から伝わってくることを考えて書くこと。
○ 十文字以上、三十文字以内にとめて書くこと。

【課題】
○ 「文章2」のよさを書くこと。
○ 「文章2」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 六十文字以上、百文字以内にとめて書くこと。

	正答率	無解答率
本校	81.2	1.2
全国	68.3	3.2

(考察)

人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかを見る問題では、記述式にも関わらず、正答率が8割を超えていました。「読むこと」に関する問題の全体の正答率も7割を超えました。主人公ともう一人の登場人物との相互関係や物語の全体像を想像することができていることがわかりました。

	正答率	無解答率
本校	35.3	19.0
全国	37.7	15.2

(考察)

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかを見る問題では、誤答の解答類型を見ると、「文章のよさ」については書いてはあるものの、もう一つの条件である「本文中から言葉や文」を取り上げていないものが多く、もれ落ちなく複数の条件を満たしてまとめることに課題があることが分かりました。無回答率も全国よりも高く、本校の子どもたちが苦手になっている分野だということがわかりました。

【課題】

経験を基に考えたことを書く
(六年生でがんばりたいこと)

【条件】
○ 「文章2」のよさを書くこと。
○ 「文章2」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 六十文字以上、百文字以内にとめて書くこと。

【課題】
○ 「文章2」のよさを書くこと。
○ 「文章2」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 六十文字以上、百文字以内にとめて書くこと。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察すること
(お楽しみ会・交流会)

(4) 交流会の遊びの決め方として、別の意見が出ました。

あかり
1年生の希望をよりかなえてあげるほうがよいと思います。

あかりさんたちは、1年生の希望を1人につき10ポイント、6年生の希望を1人につき5ポイントとして計算し、1年生と6年生のポイント数の合計で遊びを決めることにしました。そこで、下の表を見直しました。

希望する遊び (交流会)						(人)
遊び	輪投げ	かくれんぼ	なぞなぞ	縄遊び	紙飛行機	合計
1年	15	14	10	7	4	50
6年	4	8	10	18	7	47

あかりさんは、輪投げのポイント数を次のように求めました。

【あかりさんの求め方】

輪投げを希望している人数は、1年生が15人、6年生が4人なので、輪投げのポイント数は、 $10 \times 15 + 5 \times 4 = 170$ で、170ポイントです。

【あかりさんの求め方】をもとにして、かくれんぼのポイント数を求めると、何ポイントになりますか。

1年生と6年生のそれぞれのポイント数の求め方がわかるようにして、かくれんぼのポイント数の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

【課題】

二つの数量の関係について考察すること
(果汁の割合)

(3) リンゴの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき、

上の⑦にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

	正答率	無解答率
本校	77.4	4.8
全国	67.7	8.6

(考察)

あかりさんの考え方(例)を参考にして、求め方を解釈し、その求め方を使って、答えを式や言葉を使って記述できるかをみる問題では、正答率が7割を超えました。この設問を含め、「データ活用」に関する問題は、よくできていました。

目的に応じて、表やグラフを読み取れるだけでなく、データの特徴や傾向を捉え、問題文から「必要な情報」を読み取った上で、自分の考えを「表現」することができたと考えられます。

	正答率	無解答率
本校	25.0	1.2
全国	21.4	1.1

(考察)

数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる問題では、約70%の児童が「飲み物の量が2分の1になると、果汁の割合も2分の1になる」を選んでいました。この設問の前には、百分率で表された割合を分数で表すことができるか(正答率81%)、百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができるか(正答率72.6%)をみる問題がありましたが、これらはできていたので、百分率に関する計算はできるが、百分率の意味が理解できていない、そもそも問題文の言っている意味がわからなかったかが考えられます。

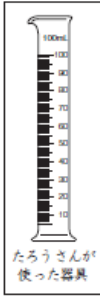
<理科>

成果や課題があった設問

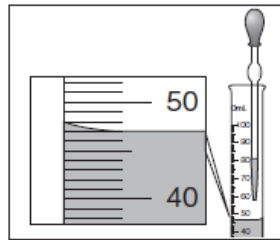
【成果】

粒子に関する問題
(器具の理解・正しい使い方)

(1) たろうさんは、実験で使用する砂糖水と食塩水をつくるために、水50 mLを右のような器具を使ってはかりとることにしました。
たろうさんが使った器具の名前を書きましょう。



(2) (1)の器具に、次の図のように、50の目盛りよりも下まで水を入れました。50 mLの水をはかりとるためには、このあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 2 mL
- 2 3 mL
- 3 4 mL
- 4 6 mL

	正答率	無解答率
本校	82.1	4.8
全国	67.8	9.8

(考察)

メスシリンダーという器具を理解し、その正しい扱い方を身に付けているかどうかを見る問題では、正答率が8割を超えました。また、他問題の観察や実験の過程や正しい結果を選ぶ問題でも、概ね高い正答率でした。

基本的な知識・技能に関しては、身につけていますが、日光は直進することを理解しているかどうかを見る問題では、正答率が3割を切っており、分野によって、偏りがあることが分かりました。

【課題】

エネルギーに関する問題
(実験で得た結果を問題の視点で分析・解釈)

実験の【結果】は、下の表のようになりました。

【結果】 (かんの色による水の温度の変化)				
かんの色	時間	0分	20分後	40分後
黒		24℃	28℃	32℃
赤		24℃	27℃	29℃
青		24℃	27℃	30℃
白		24℃	25℃	26℃

【問題】に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

(4) はなこさんが、下線部のようにまとめたわけを上【結果】を使って書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	38.1	11.9
全国	35.1	11.2

(考察)

実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる問題では、正答率が4割を切りました。

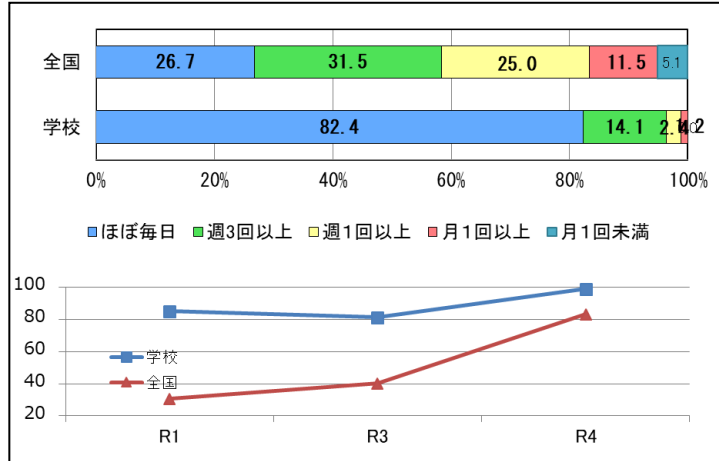
この設問では、「問題」に対する「まとめ」の根拠を「実験結果」から導き出すというものでしたが、必要な結果(実験データ)や考えられる原因を記述することに課題があることが分かりました。

質問紙に関する調査

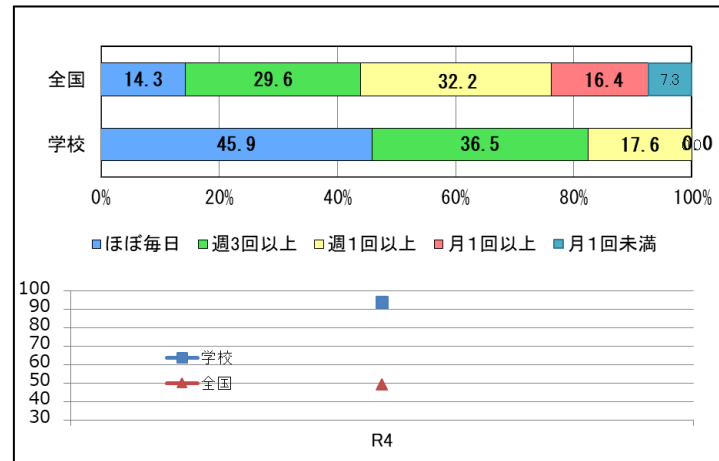
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

【成果のあった項目】

5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

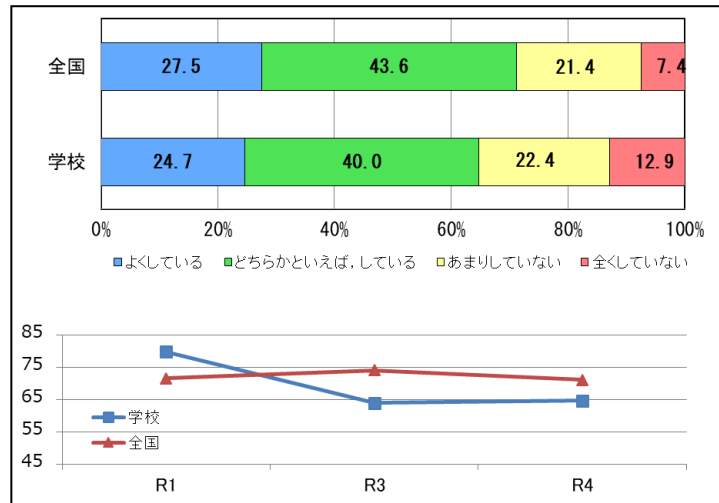


学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）

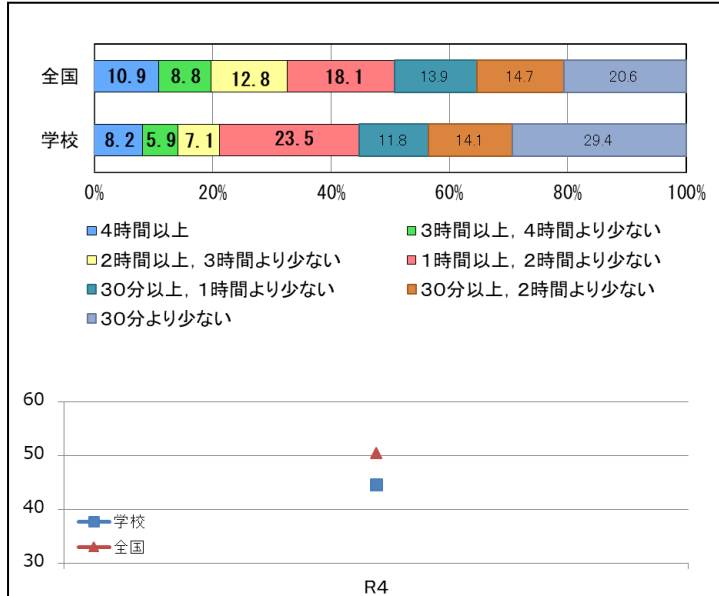


【課題が残った項目】

家で自分で計画を立てて勉強していますか



普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

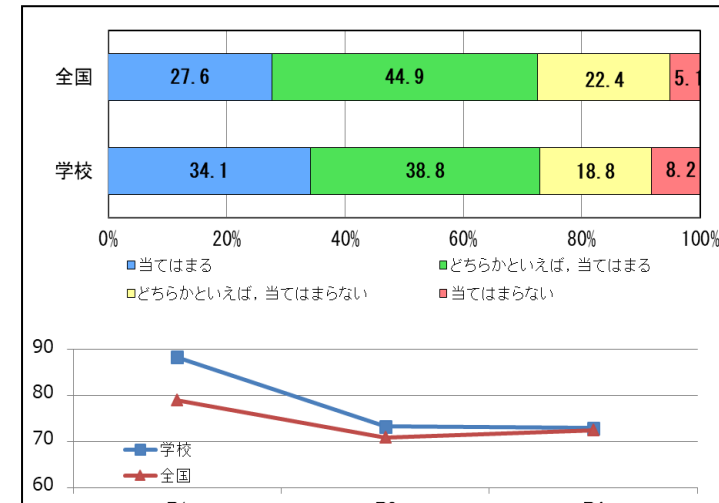


（考察）

GIGA スクール構想の一環として、一人一台のタブレットが貸与されて3年が経ちました。タブレット（ICT）に関する質問項目すべてにおいて、肯定的回答が全国平均を上回りました。

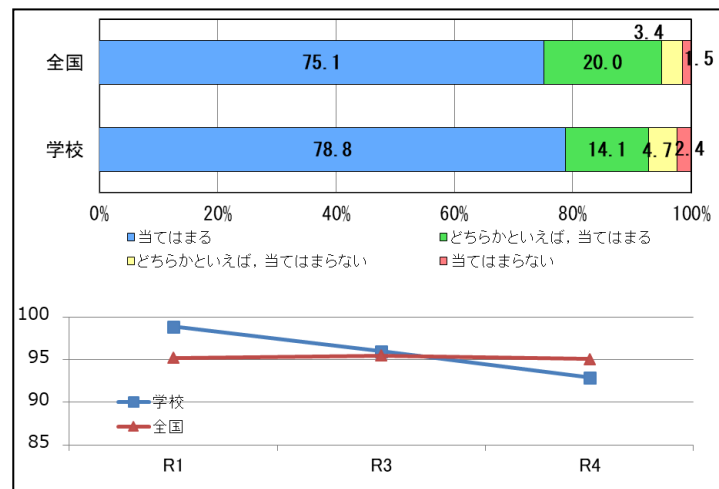
子どもたちの学習のツールの一つとして、タブレットが活用されていることが分かりました。ただ、タブレットを使えさえすればいいというわけではなく、正しくタブレットを使う必要があります。スマホ安全教室などを通して、正しい使い方について考える必要があります。

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している



▲ 全国
■ 本校

人の役に立つ人間になりたいと思う



（考察）

「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問では、肯定的回答が若干上がったものの、「うちの子、宿題しかしないんです。」という保護者の声もあることから、与えられた宿題などには取り組んでいる一方で、自分で計画を立てて勉強することについては、課題があることが分かりました。授業の復習としての宿題だけでなく、次の授業に直結する予習のような宿題も入れながら、自学自習できるようにしていきたいと考えています。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- 学力調査で多くの子どもたちが定着しきれなかったものに関しては、しっかりと復習し、来年度以降、本校の子どもたちの苦手分野として、教育計画の各学年の年間計画に記載し、しっかりと指導をします。
- 朝学習（オビタイム）の時間、読解力向上の基礎となる漢字の定着率の向上を図ります。
- タブレットなどのICT機器を活用した授業づくりを継続します。
 - ・NHK for schoolなどの視聴覚教材の活用
 - ・写真や動画を使ったきろくやインターネットを使った調べ学習
 - ・タブレット操作スキルの系統的指導
- Hirakata 授業スタンダードに基づいた校内研究を進めます。
 - ・国語科を中心にした授業研究
 - ・「話し方・聞き方名人への道」「まとめ・ふり返りの書き方」の教室掲示と指導
 - ・「枚方授業スタンダード」に基づいた学習規律の徹底

(2) 家庭学習について

- タブレットなどのICT機器の活用を継続して行います。
 - ・授業の復習だけでなく、予習などでロイロノートやタブレットドリルの活用
 - ・調べ学習などでロイロノートの活用
 - ・NHK for schoolなどの視聴覚教材の活用